

7～8月の高温がアカスジカスミカメの発生に及ぼす影響

【1 成果概要】

有効積算温度をもとにアカスジカスミカメ各世代の成育ステージ到達時期を推定すると、平成22年の第1世代以降の発生時期は平成11年以降で最も早くなっています。この傾向は斑点米の多発年であった平成11年、12年と類似しています(図1)。

アカスジカスミカメ第2世代孵化盛期の早い(北上で8月5日以前)高温年は第2世代成虫の発生が早まり、7月や8月上旬の発生が少ない場合でも8月下旬以降は本田の発生密度が増加する可能性が高いので、追加防除等の対策が必要です。

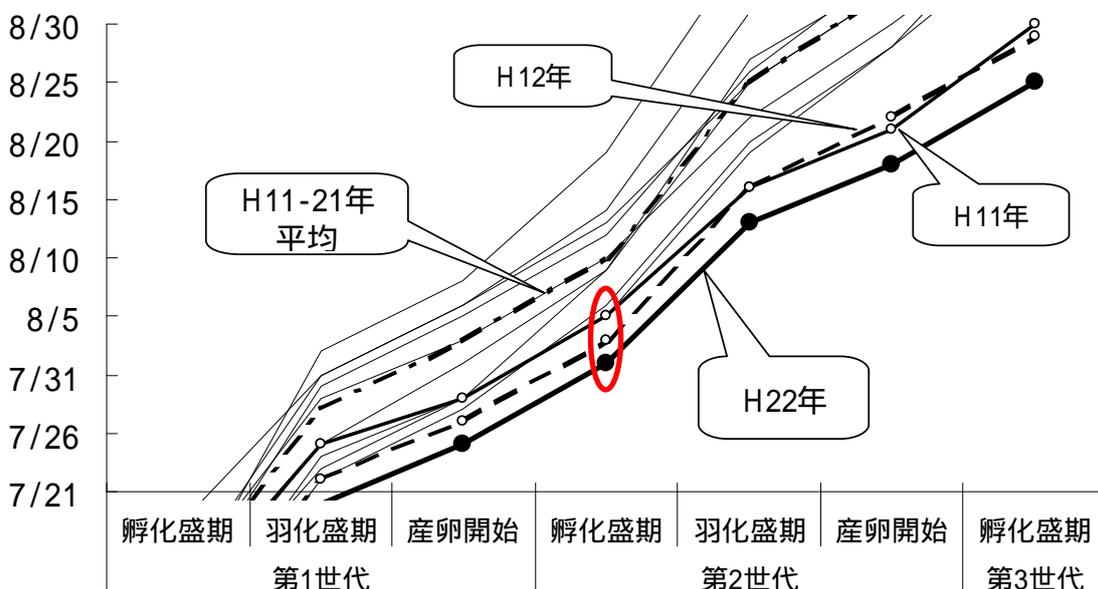


図1 . アカスジカスミカメ第1世代以降の到達時期の推定

【2 効果】

斑点米カメムシ類の発生予察や斑点米被害予測に寄与します。

【3 留意事項】

- (1) アカスジカスミカメの休眠卵における発育零点および有効積算温度の報告はありませんが、重久(2004)を用いると現地圃場での発生消長とおおむね一致します。このため、本成果の有効積算温度はすべての世代について重久(2004)を元に算出しています(表1)。
- (2) 8月下旬のアカスジカスミカメ密度を低く抑える耕種的対策については、現在検討中です。

【4 適応対象】

対象者 病害虫防除所

表1. アカスジカスミカメの発育零点と有効積算温度

| | 発育零点() | 有効積算温度(日度) |
|-------|---------|------------|
| 卵 | 12.1 | 105.7 |
| 幼虫 | 11.9 | 182.1 |
| 産卵前期間 | 15.1 | 59.5 |

重久(2004)より